

令和7年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第1学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策	成果と今後
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで話を聞く力を付けること。 ○声の大きさを考えて、自分の思いや考えをはっきり話す力を付けること。 ○教材文を正確に読み取る力を付けること。 ○様々なジャンルの本に対する興味・関心を高めていくこと。 ○平仮名・片仮名を丁寧に正しく書けるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」という基本的な話型を教え、ポイントを押しさえながら聞けるように指導していく。また、簡単な相互評価をさせて、聞く姿勢を意識させていく。また、「聞き方名人」の掲示をする。 ○意欲的に話をしたくなるような雰囲気作りを工夫するとともに、声の大きさを考えながら話す相手の範囲を広げていく。(隣の席→学級全体)また、「声のものさし」を活用する。 ○音読を取り入れ、声に出して読むことから内容の理解を深めていく。(叙述に即して正確に読み取ることや、登場人物や場面の様子を想像力豊かに読み取れることを基本に進める。) ○図書の日や朝の読書タイムで読み聞かせを行うとともに、興味・関心が広がるような本を紹介していく。 ○文字の書き順、形、「とめ、はね、はらい、折れ、曲げ」等の基本をきちんと指導していく。また、そのための時間を確保する。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを押しさえたり、「聞き方名人」を意識させたりすることで、最後まで聞こうとすることができた。 ○意欲的に話したくなるような話題設定や雰囲気作りにより、すすんで話そうとする姿が見られた。 ○音読をたくさん行ったり、教材文に線を引いたり、そこから読み取れることを発表し合うことをすることで、正確に読み取る力が付いてきた。 ○読み聞かせや本の紹介により、本に対する興味・関心を高めることができた。 ○「とめ、はね、折れ、曲げ」は意識して書けるようになってきた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本を借りる時に多様な分野のものを借りるよう声掛けをしていく。 ○水筆を用いて「とめ、はね、はらい、折れ、曲げ」等の基本を意識させ、より丁寧に書けるようにしていく。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題での立式をする時に、たし算になるのか、ひき算になるのかを判断すること。 ○たし算やひき算の式を基に、文章題となる話をつくること。 ○ひき算において、求差の意味を正しく理解させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章から場面をイメージさせ、式につなげるようスモールステップを踏ませる。 ○文章題を解く経験を増やす。 ○立式後、その式の意味を説明する機会を積極的に設け、式には意味があることを身に付けさせる。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○おはじきやブロックなどの半具体物を使うことで数や計算についての理解を深め、正確に計算する力を身に付けることができた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章題を読み、問われている場面の意味を正確に理解できるようにすること。線を引きながら問題文を読んだり、習熟の段階で練習問題を数多く行ったり、問題作りの活動を多く取り入れること。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○植物の成長の観察をするときに、表面的な感想にとどまりやすいこと。 ○活動の導入で児童は興味を示すが、時間が経つと集中が途切れやすいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○五感を表した、見るポイントを書いたカードなどを用意して観察前に提示する。 ○観察後にペアや小グループで「見つけたこと」を話し、考えを広げる活動を取り入れる。 ○予め、学習計画を提示し、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ○発表や共有をする時間を設け、主体的に活動できるようにする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察ポイントの提示、学習プリントによる見通しの共有、ペア・グループなどの取り組みにより、児童は「何を見るのか」「どう記録するのか」を意識して活動できるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学級では見るポイントを工夫して提示できていたが、学年全体での共通カードや活動の統一が十分ではなかった。
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れを感じながら、皆で合わせて歌唱したり合奏したりすることが苦手な児童が見られること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伴奏をよく聴いて、拍の流れにのって歌えるようにする。(身体表現の重視) ○正しい姿勢を習慣づけると共に、互いの声をよく聴くことを意識させ、無理のないきれいな響きで歌えるようにする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○まわりの声や伴奏の音を聴いて、無理のない自然な発声で声が出せるようになってきた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○よい姿勢や表情を習慣づけ、まわりの音を聴きながら強弱などの表現の幅を広げていく。

<p>図画工作科</p>	<p>○創造をふくらませて描いたり作ったりする活動を通して、表現力を高めること。 ○切る、貼る、塗るなどの基本的な技能を習得すること。 ○自分や友達の作品の良さを見付けたり、話したりする機会を通して鑑賞を深めること。</p>	<p>○想像をふくらませることができるような題材を選び、導入の工夫をする。 ○様々な制作体験の中で、基本的な用具の正しい扱い方を身に付けさせる。 ○自分の作品の工夫を発表したり、友達の作品のよさを見付けたりする場を設定する。</p>	<p>〈成果〉 ○絵の具の混色、材料の組み合わせなど、自ら新しい表現を試みる様子が見られ、試したいことに積極的に挑戦する姿勢が育った。 ○材料や用具を目的に応じて使い分けられるようになったこと。 〈今後〉 ○鑑賞において、良いところを見付けるだけで終わりがちなので、作品の違いから気づきを深め、問いかけを通して見方・感じ方を広げる指導をしていく。</p>
<p>体育科</p>	<p>○走る、跳ぶ、投げる、受けるなどの基本動作がぎこちなかったり、体幹が未発達でバランスを崩しやすかったりする児童が見られること。 ○用具の扱い方や遊び方の距離感や力加減がわからず、友達とぶつかるなど、けがにつながる行動が見られること。</p>	<p>○体づくり運動を中心に、多様な運動経験を積ませるとともに、準備運動を主運動につながる動きだけでなく、多様な動きをつくる運動遊びを少しずつ毎回取り入れていく。 ○活動前に安全の約束を確認したり、動き方の例を見せたりしながら児童が具体的にイメージできるようにする。</p>	<p>〈成果〉 ○多様な運動遊びや準備運動の工夫、安全の約束の提示により、基本動作の安定と安全への意識が徐々に高まり、活動がスムーズになった。 〈課題〉 ○動きが単調な児童や距離感・力加減の把握が不十分な児童が見られ、運動の質と安全面の習慣化にはさらなる継続的指導が必要である。</p>
<p>外国語活動</p>	<p>○活動内容によって、児童の取組に戸惑いが見られること。</p>	<p>○事前にALTと授業内容を確認し、個別支援をしていく。</p>	<p>〈成果〉 ○活動の流れがつかみやすくなったことで、自信をもって発話しようとする姿が見られたこと。 〈今後〉 ○1年間で戸惑いは減ったが、反応表現(Yes, No, OK など)を自然に使うといった主体的なコミュニケーション力の育成に取り組むこと。</p>
<p>道徳</p>	<p>○学校を含め、公共の場所や公共物を使うとき、周りの人や次に使う人の気持ちを考える必要がある。 ○よいことと悪いことを区別し、小さなことでも、人としてしてはならないことを理解する機会を増やす必要がある。</p>	<p>○みんなが使う場所や物を周りの人や次に使う人のことを考えて、約束やきまりがあることを通して学ぶ。 ○善悪の判断場面を学年や学級で学ぶ機会を意図的に多く設定し、人としてしてはならないことはしないという判断力を育てていく。</p>	<p>〈成果〉 ○学校を含め、公共の場所や公共物を使うとき、周りの人や次に使う人のことも多少なりとも考えて使えるようになってきた。 〈今後〉 ○学校は、いろいろな立場をもつ人が集う場であり、多様な価値観が存在することを少しずつ理解させていく。</p>